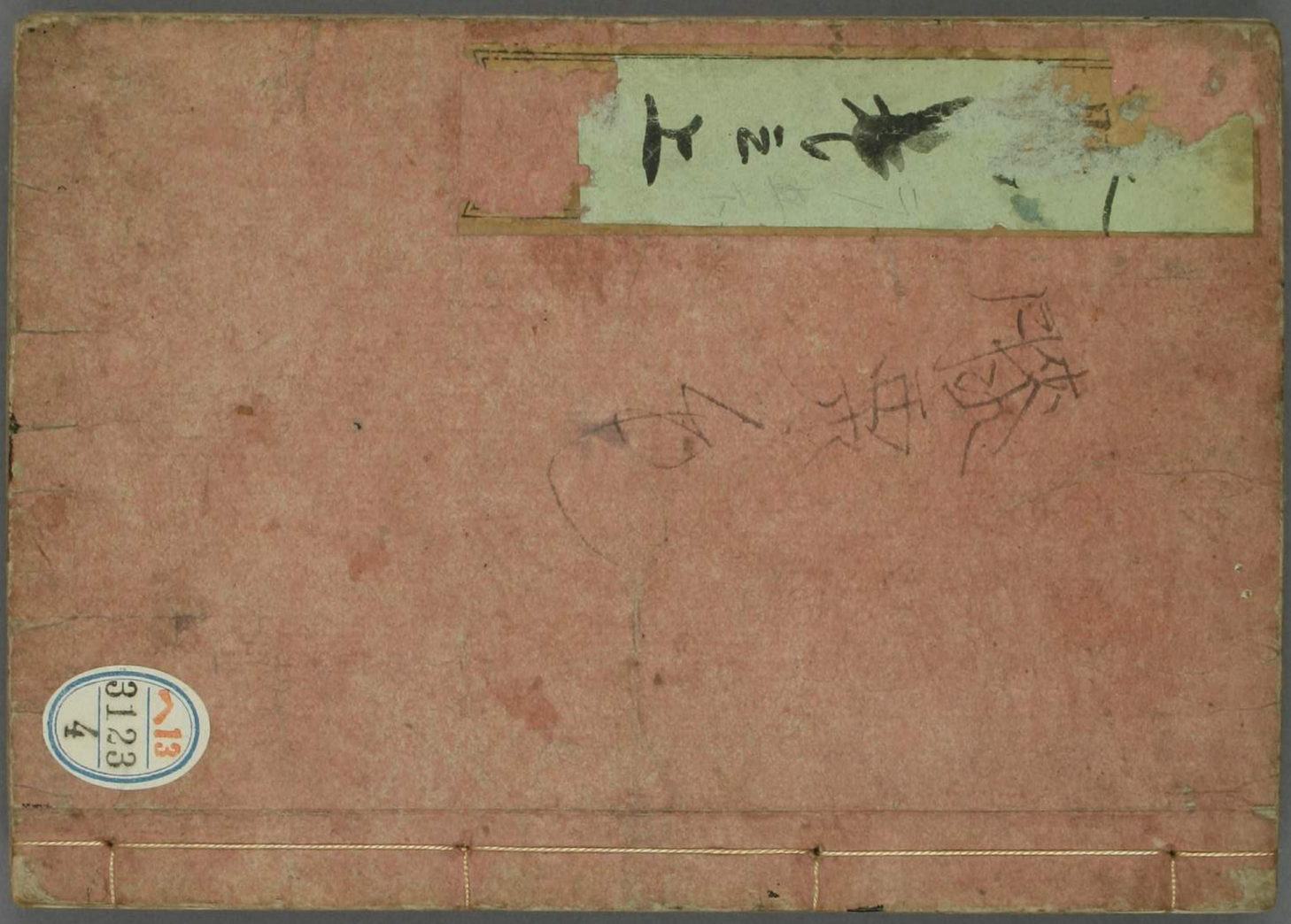
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT



113
3123
4

特
へ13
3123
4

道中膝栗毛後編　坤

式亭の出版仕候大名のお茶つき人物自慢

出るこゝろ出八てゝよろしきてのぶてゝ

きんちゃくしゝ式のろもきづくことをめりてみたんる

ゝ式亭三ヤちゝりよのまぐ　ト陸てゝよつてこゝろこゝろ

ゝてのようきゝゝきの中へまろうゝまとのやゝへまちると

年ちんの女ぐんぐぜんゝをのちゝゝびだぐりへまちると小八ヲイと

へゝも一ぜん　ハイ〳〵　ト　きゝ八おりこゝろ

ゝてゝはれぐびゝとろげゝこんまりの　ゝこゝきゝの中ゆゝゝゝきゝ水

てゝ表ぐびゝりてゝこやゝてゝとゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

むこうの方のトヨ
きちらいこの門てきて八ウヤ
あゝア阪とこの門てきてこゞ
どきてとまぎれまゝ
いてとゝゝゝまてゝ
おいらもつれていく孫へエイヤおめへ
のいてきてトまわゞのよ
イヤおりゝゝめへきゞきて
くのまわゞひを
うちゝいてヤアこれいゝ

きてこ孫へ六ハ二きて孫へすのう
めへゞ金をやるふうとあ
アむのゞ見いぺゝく六ハ
ちん
ゝ出よゝトまれて
いきる女のある内へとあり
内ふいきもひゆうこんも
孫へトあちこちのうちを
孫そうだのあ
大キヤアンゝ
あぢのとゝゝ

コウ　さてやさんごてらよりまちんぐ宿へ移くらの　アイ
むうこのようなたーのうちちよ　アイ　おせへト　おくられる
内のうどにてうち
チト　はめんかせへト　ぞうとしたうこうれべてこの代ゐでう
もちられよよくゐ内ゐそ　ぶうぐん一ウ
きんゐ日うとるうそうゐ　ちぎいまてはるーあるべまゐようぐうく
あうそそうゐ　お初ぐひーう　ぎんれいあうう　一人ハ六千　余のあやぢ
一人ハ七ハのむさとゐおいづるときさまゐ　あうぎれぐうけのあーと
のぢー　ゆうあうそうゐ　ばれめたぢア
ねのえぐと　ぐーあういうくうぐるうぐー　とりちくうさいうう　まう
ませ　ゆ　ーうとーうと　今　ぢ　ーとめてくんるせへ　あやち　あぐう　ぎ
ぎ　ぎ　ぎ　

そ〜てまちへ行こうぞァの〜こゝまうこゝ
ぶがおもてこうぐえぐ屋ぐ屋ぐ屋

あふぐ至器ごァの指おぎァのくぃうく茶を
どぃはるくらいこんで書はりごァり 絵二 八テ風ゲ
ふゆるふよりて茶を こんどぃふいあんでごの され
ぶさァ。ヨーぶハァおりいつ紀ふやァ。あふぐ越まい
ゆちく。こんやもるく風ゲふて。おるぐ。でき
ういよ。ゆがどろうぐ。ちく。きちァーきろ。おのぐ。
人さァの同まるス。ゆぐ。もゲふ紀こんで。服おの
はぶゆるものぐ。こん。出まるぐんぐぃ。おりつく

上リ方 三十八

かりぐ。そこでハァ。ヨーぶ立実のウーて。せんの俄
育う。邪ふ何条ふ。ゆうせるこんなる三味のウ
おのくふ。ゆぐんぐぃ。そふまるくと三味せんやどもゲ
西品。そ。せういの猫どもゲ歩教されべいうう。
そこで茶ども。ゲはちく。あれて。あんでも。せんの
茶ぐものウ。こんるうぢく。なくまぐぃこさァ同のお
ぐァり。ゴリャハァ。こで。茶を。まぐ。のウ人ノ初
めこうこんべいこさァちぐぃへなふと。あふぐハァ対上

ありがたや。なんぢものゥ仕へくらふのハつきの
コリヤアいおりひつぢだくさう法華さろふハアイトひろ
もうるこまりないそこで日ハもハア兄弟でまだ
まだのゥしてせがれ性びまふるだのしおりつきすがたの何条
ぢをやくさくさ。きよせんハアあしやくそもいるない
こんぢ。愛宕のゥしておしの弟なりやくさ。兄弟世
ないおりふよふやァなくるんりんぢアり。ハア
感心なおくなぢ。財ふ文。明れさんちめへぢふりふ

ゆりくおりひついて。明れ乳ゆやァ出なきろく明れ
ハア。日くも序ふ戒名ぢ。日くぢ。ハ
とのぢハコリヤアふくりの孫でくろぢ。日くぢ。ハ
ハアか日くさんで。仏孫のゥ孫ひやくさ。日くハ日光
のゆうでくろぢ。ぢてきるぢもたるよ
せのてゆりやきぢんぢいぢ。日くぢ。ぢ。ハ雷
ぢくさんでざ。三千年だくもあるのでありや
ぢくさ。夏でくゆうなりやて。日くぢ。ぢせど

ぐちさァへおんこちてくおりひなさろ。そふまろとハァ
てそ雪ぬどのぐ桜(ゑのき)のかぐ桜(はな)ひちいで。でらく屋(ろ)とちゆて。
ちんき病(ゑ)ぐおこりてさそぎ雪ろゆふあふぐそこで。天
ぢくのウへ飛ぐぐんてもでゑなんて。ほ一ち内
で。雪ひ生(ようぢ)のウしてゐる内。秘(ちぢ)さァくろ雪ちさゆやァ
りぐきこへちさなんぐ。そ雪ぐ。ほ一どもの姫と。
がらゑ祝(ゑ)んどろのウちまして。ほふハァちなれて
よゆきもおぎんかゆんろ。きぐるその雪ゆとと

むふこゑておりひなさろ。そこでハァちぢくの
祝(ちゃく)ぐ方どのろ。ダこゑあ付(こつぢ)ゆ身体てゑ祝ろて。
生(ろう)ゆゆへゆまれていきまりゆ。ぐ一ぐ。ぐ友ゆでこ
さァへゆせぎふりろゆて。ほこちりろでろぬて
おりひなさろ。あまゆさゆその時。ほ一ぐ姫へおつ
ぢろんでゆ。ほ。あふぐハァ安(あんど)ちゆまゆろ。たろこ
どこぐ人ゆこちて。縛(うぢ)ぐ。接肯(ぎ)ろぶんぬて。ほぐゆて
でもゆろぐんぐ。おりゆさだろで。仮(より)きくだゆ

あてばつぷうなるこりやハアあんとるこんぶこもりて
いるうちに皮なまの雷どのがまて。これのむこどのい
ハア。熊坂とうくへあいにまて。こぐら。ふがらて呑れたこの
ま。熊しやしさて。熊こいこんぶ。姫もやきあつほ
もハア。行燈のウめぐれとやふ。ありひあつほこぶ。
あくとこぶ。せうこぶ。共代。こんぶいまやア。むこめぐ
雷どの。種をあつたこんぶ。鬼。おに。でもうこある
ぶい。それふハア。釈雷の。釈をせぶ。せぶ。ほんで。

あんでも鬼の子とうむよりまア。氏弟。さうなへ
孫。のうけて。初。ふ。ぶ。関係。なこアはれこ子
ぶ。氏姫でこさうやまそこてハア。ヨ。ちもちう
のうおこて。見ねこ。彩。のふ。鬼へうまこ。ちも
こんなふ。法。ま。人。るのことうむこふ。よくの
関係。ぶこあまこめて。最。こ。こここうつれて
明。孔。おりひこアり。ヨ。ともねこ。いん
ちこりなアなこ。者。おりやアこ。出。ちこ。ちこ

さへむすぶ法ぞおれやハトをこうろうよとるさとうちよ
ゆゆぞるどだ　サアこうんるそべらもあいまを門がゐ
あてうりて
せっだいろうぞ〜〜吹風の女のまうべたうへあゐ
祝まるとだいトかつたぐごとこうへかけて。もあん虫のむを
るどゆしぐうぞあるぐのおやぢもしぶんゆのもうもうぐ紙帳
ちんのゆるあとひうぞうのうのたまくこうけて初る
少使うりるよふさ　おらうもいのまうふいうふトもうゆ
延二戸ノ吹れめ。ゆちめよふとあまうこうの
おのうらいまいしい　さうまうをしてうの同ぞうとを

とゆぎろうろ。屋とはめうるてちるとてうてうぐ
おめくまるめ　うそとつくせうそなれそ教アノ
姫とぶのちめて月ゑせよふ　うそなれ
うぐちとまるかる本貸ぞゆうのるびくきもぞるしの
たるくいひるぐ。淺くべれむろ屏風も破猫
とのる風のまる　いくもの交ゆ猫ゆ同笑てゆ
八あうを何ひ月ゑ。ぬる猫ゆれのうけ合新ゴウく
スウ　ムニヤ　財ゑハよくきくハそろくあきよれどゆ。
あうハるくまうそゑそそうあうを

さぐるとてよのくくたてどもとうつき二ちいへおぐろ丸丸べ天井
かくけさのことみてそのうくはもくくむろをちやくれべあるくくここりく
とるるよおぐろ丸やぐてはるるかてさぐうまりりむさとあと
おりひだぐアぐゆそるるかくんの中くをいここそろくくあてまりくゆきそ
おこそべぐぐアぐ
やとさるる

一ぐるわぐあゆゆるョさる　トりぶくはぶハうちくん
さくろうぐちぐセーと

あげくさくとひるうしはあくくんみのくげをさてだろくうとけるくけ
さのことあくねきぐくぐうさうおちるおとくくしかうくストウン
内のあくぐ
やとさるる

一あんぐくこうの
ぐ一あんぐちくるいがそろ

ぴやしもるんくうるおちきるさろくくあちるぶも
ぐれもちきあぐう

一ぐるくんおとぐさあうとうけるさろぶおろくろ
くくあんぐちめんぐろおちれなるんぐこてはあやくるるかハ
てんぐやうとるくくわさ

下へおちくくとろぐあうやあのよくるうの中へおちくろくるるるるぐ
あくふとろくくるんぐろひくくるゆくさぐくくあべやくけさるのどくう
おうくさくくいぶりんぐんのるくくおちくくく

うちとあがたの　那　ヤ乃　こんさァ　天とう　おちめさ　ふ　さ
ハ　ア　イサ　ぢい　ハア　指ふ　ちり　れて　ちゆ　さ　ア　こん　さ
ぢさく　岸　ぢゃ　ア　あさ　ま　い　指よ　ぢれ　て　ア　あん　さ　ぢ　ん　ぢ
そ　て　ア　ぜ　天　と　へ　あ　ら　さ　ま　ア　イヤ　ま　ま　ん　じ
と　岸　ふ　ひ　れ　さ　ら　ぢ　ち　や　こ　ら　ぢ　ま　あ　ら　さ
そ　れ　と　さ　ぢ　ふ　ト　い　ま　ま　ぢ　ち　ら　ち　ア　ま　ま
ど　ぢ　ら　ん　ま　ま　ハ　ア　六　十　ふ　な　ら　ゆ　ぢ　ど　あ　ま　ふ　ら
あ　ゆ　ま　ま　ぢ　ふ　く　ち　ま　ん　て　ま　ま　ぢ　ひ　く　ど　へ　ま　ひ　く　ま

あさんさ　ちゃ　ア　ち　ハ　ヤ　り　く　ら　ん　さ　ア　ら　ぢ　ち　ぢ　ゆ　ア　せ　ゆ　ぶ
ま　く　ま　ハ　二　ア　年　も　こ　ハ　ア　ち　ち　ぢ　そ　ん　ま　あ　ぢ　ま　し　い
ら　さ　ア　ち　ち　ぢ　ち　ち　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ぢ　で　ア　ぢ　ア　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　く　く　で　ま　た　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま

〜てらんせんとろくぶ者んせものもくぐ。ちとをなで
ちろるーてでんぐまりのつくろひちんが〜出〜さうとさんで
あまいりれぶわぐるくよげあけて。ほんぶらうくまりよろの本
とまりのぶ二ぶまりこべでんぐぶふまぐでの小田原の泊でんぐまい
ふろのそこことぬいて弟分ぶんぐらまぐ又ゆぐだん
二ちいをぐんぬいでこ百ちまりまりまりちるが稲べぐ
ぬ八ぶ子や面目まぐんも稲べらまんいぐ一ちるよれぐ
少ん孔のむまとめるーちのひまのびーん
さてとてとる亜 六十の波あく

ぜんぎつねのゆめ　戸まどひのこゑも　おもしろ
ゐんぐーと　襖をひられこと　べらこぢつけぢやそれ
でひとつ　性とあんぐさぐ　こりやおりろぐ　きて
てんの　まぢこぐぢゆぐべのよす　ぼれや　ろくぶ　ろ
ぢよ　まちんぐ　ぐりと　帝ぐ　附ふまめぐ　ぢ中
ふおいで　ゆうまぐろ　ぢやまぐ　ぐとこんなぐら
同とさるーぐ　こりやおあぐ　ぢをるさるーぐ　ぐ
めぐらいよ　イヤ　ぐーぐと　襖ふひられ　中ぐ

とーろ　二ろのかうぐひいてい　ぐとまぐ　ぐーぐ　ぼれ
もぐ　ぐるぐ　ぐいなぐれば　ぐーも　ぢえよ　ぐこん
ぐーぐ　ぐん　ぐ　イヤ　ぐーぐのぐ　ぐふおいぐ　ぐなんこりや
こんぐる　襖ふひられ　ぐんぐろ　ぐなんでも　二階へ　ぐて
ぐん　ぐせうぐ　ぐれば　ぐりてぐーぐ　ぐあぐりぐ　ぐぐふ
ぐろと　二階のぐぐこの　ぐのぐうぐ　ぐ孫のぐるぐ　ぐる
イヤこりぐりぐーぐ　ぐあぐろ　ぐろぐーて　ぐれば
襖ぐぐ　ぐ大ぜいよりぐ　ぐんぐーとひろげて

又てびきの嵐がいふぶかいぐひいてきたもの
のふんどしへ掛さ三味線の巻がきるいどかせてこの
ぶ中ぐらいでんがゆらぬといなぐらさんどしとにか
こへてぶりいてゐるくなかるるどちちくみどくなのもと
をこでえ弟の嵐がいふぶかいふんどしふりぐろて
三味線の稽ぐきるもの〜ぎごすのへこあ〜おいらぐ
ひいてきたぶ乳のふんどしともかるうて兄よふとおお
なかどくはふくへてぶるふとにもちちちんくとなりや

〜ことこの月いかちぐ〜又二度の嵐があれかハし〜
中ふ男のふんどしとひいてきたこりゃあ月ちぐ
ふ絞いぐみで敲弓の稽ぐきろぐふとくへて
掛つてこれぐづンぐ〜義太夫三味線の稽ぐ
きるきとこで嵐ぐもぐこの月いふ〜きぐこ弱ぶ
乳のふんどしこるへいこ三味せんの稽ぐきろ
ふなぜ小八ちゆぐふんどしへ義きる夫三味せんの
稽ぐきろぐふ〜ふきとろとの嵐がきぐ〜く

めんぐりとアいそのまぐごへぺざそのまぐごパテ小八く
やうふんうごふく 掛ぐ
中井のしもくまつくしあまやかうとびうつえ川 ちかまの
あまうようとびうつえ川 ちかまの
のちまうあぐうやアせ 坪 卒 ちかまの
体なのえんやアせく 平 やうまい女ともご
ほうかる女のあい やうそうや
さてうそう 敷 中 井 の 宿
それより中井川を歩 紙 人 倉 沢 くるうえ 坂 へ 法 く。

ヒガシ 四十八

交ハ 蛇 栄 際 の 名 物 也。 番 人 きぐふ 海 よりう 元
来 ま て 毒 ま 交 ま て ま ぐ く ほ と 体 め て
交 ま う ま て 毒 ま る ハ さ ぐ ぬ の 麦 焼 や
えんどうろ おろろき 金 沢 の 宿
そうあくと 中 ろ 塩 浜 を 歩 紙 ぐ り ち ぐ ふ 俄
ふ 大 雨 ふ ま ハ ぐ ー 名 れ ば 東 合 羽 歩 被 き ぬ ま ふ ら
くめ ふ け て 名 ふ ち 団 子 の 浦 法 ぐ 宮 乃 風
ふ ま ぐ り う ぐ て え る 名 ち く 物 乃 ふ 踏 也 し。

あ
はるもおもげふ。やうるく。奥ほの孫ふいろう。爰ふあ
中げるう。美歩ふ。美歩美ョイだあさん。ソ。きること
法けこ。ぎること。ぎこ。ぎ中ムるせ。ぎさて。ぎ。ぎ。ぎ

ふりでぎていつこうきれもむぐでぐ。いでべてそでどぐくおあこ
るやうてぐるくぐ江尻のしもくとうち見るふこてゆてゆもたれ
俺くてし　ぐ弟さのし　ぐ招ぶくとうちまぐ見て
名じり　江尻ふ　夏の　あめ　たれ　あぐうう
あめ　夏やこうれべまぐうぐ　ぐうふ人の　ぐもうろげぶかく
出りるの　ぐ行のまもいさはく　ぐ　まうと　よん屋ナア
ちのんぐうアエ　おさんどなア　まづいぐ　あぜさ祝てる
こぐかうれよりまべの　ぐ仮ぐまぐ　ぐて　ぐうぶ　ぐアくへ八ア
このわてぐいぐうアぐまうこだうとこきあアぐる　ぐいでふ

我ふ　主　る　彼所　上左　昨日　庭根
ぐうもやううまとぐい　ぐ行くまうくるくぐ八ぐうアイ
ふ　ぐおまア　ぐぐおまぐ　ぐあくうる土　ぐ司リアア下町のさう
夏のおまふ　ぐ　ぐこのやうくめぐいよばるくぐ行う
やアぐ行えて　ぐまア　ぐ左　ぐべ八　ぐきんふようも　ぐ清ふへ八
くうぐ八ぐてうくうと　ぐ殺ぐあうこ　ぐ八て　ぐ家中をとうをし
ぐうぐ八ぐ　ぐ殺ちんぐうこんるう　ぐうぐ　ぐ呑で　ぐまるてぐ
おまふくうせぐ夏ぐ八ぐるアぐ　ぐ丁　ぐ湖の　ぐ脊　ぐ戸ふ
ぐるひでおいくう　ぐ夏ぐ　ぐ夏ぐ　ぐよぐ　ぐらうこんう

くるやアがりさるこの所ハ海辺のかゝあめハ
辛ぬれ物よりうるがあるとふゆる時分ハ
まさとせて六ちやアがりそれハあんざらハア
くるとハうるむせうなる字とゆなるくのイヤ集
経とうぢれのこいろくるる戦云とはきやアがりて
うるとあるこの体験よ仕よくいやアがりそうまと
くるかのう業とるどウ「まごごん火をかてくん
なせく」「ほ士」「ハイくもまいちやアおるごるがおるごるこ

とぶおまふのせよふとい旦ア寸ゴリヤハア。あん
るこんぐ。我ホ ノる ア 糸こ ア ア ア ア いつもぎ
るいは形ふぜろぴうふのれろてそんぐん
のりん 糸ぶ貧と二百やろふと。抽の末の 三 切 ろ ご ろ
ぐ ろ と ぐいのせて。江尻へくるとおきろとおまア
れのぐがで寸郎ところふろ。おまアーろさぶんで。
敲 貧ハやろふ。又二百下さ月ごあんな高い旦
形ハめろさゆアなれりんぐ。一ちの内ばるまのろ
てろ ろ ぶ ん ぐ る の ろ ん

上ナラウ 五十二

ゆてそろ
いぐきとく 一ゴウ〻く 一ヨイは形あぶか高。同とさま
なさろ ぶ人ぶこされ 一るぶ 切ろ ぬろ 祝ふけ
て月を
ぐ出ろ。きのふ三湯ろ。ふろてるハよいるでありさ。
そてるとがとんぐ。乳のよい男ふ三湯ろ。泥
ぶ 百ス十で。孫とてそふこ泥がるとがいまハ。
は形ハ。こんぐ。ちゃいるふ。今ふ湯よふイヤ
めろこふい孫ろもなろ。ぬなど。ぬきひて居
さ高ぐ。ぐろぶ。それぐきのどぐぐろ。敲貧ハモウ

りゝひまをまいとつくあるぞれくゝこまいだゝへ
ゝるとゞ兵衛はるのゝゝで縛がいとまをせうぢと
ありてお付なさん酒でもあがるゝ酒をへゝろ
ちかゝゝあげませゝゝくゝるゝこのゝゝのゝゝ百姓
ゝれて泥濘へゝるとゞさ兵衛の者くまでおこゝゝでと
こいがゞ早ゝゞるへさ孫まをとゝゝ孫ふゝるゝゝて
ゝゝていゝゝ者れ話ちんへゝゝゝ

ぜて家より壱屋るふ者ゆくゆくどふの安部
川まちらくるぱあべ川孫兵衛の母おそて母屋あり
表に回りて大門あり。家内てるとり廊ふ入て
又るふ表側ふ形となりくるで。ひきさがるもぐきの者
解しく。又せ法元のおりむきが茶屋の者ふ所ふ
おりよりて仕ろ。あとおがきぐ者ふ茶屋ふ級
のつきる相おるどきて。母の表を張ぎして
ろぶ屋おろふ茶屋の女ハ髪形の孫ト読とぐき

ぎろ。あ人の神と又ハ人ハ役引ふ鎖ふて。
いづきも祖父だまろうなろ。そて出ふ金
げけの競あれば。格のさ見ふりつとろるどくろつけ
てぐぎあるくひやう。あ屋。ろふ男女ハ年恋系
の人のどく。文ふ風俗宮ハ三年色
向ようくるハ地まりろと又てぐ。このちるぐ。ふろうくるどてろとき。
山ぐのひろき角ト話ふ行のさハのちるとちげるとちた。ざしのてぬ
ぐひとぬぐびまぶろ。一あんぐイ。ノ。ちんぢ兵まることちぐけ
往来の人ハ。あろて。
てとと又ゃァぐ屋ァゼちれふぶ入ふ法ろこ。ヤイ

[illegible]ト　[illegible]ト　[illegible]ト　

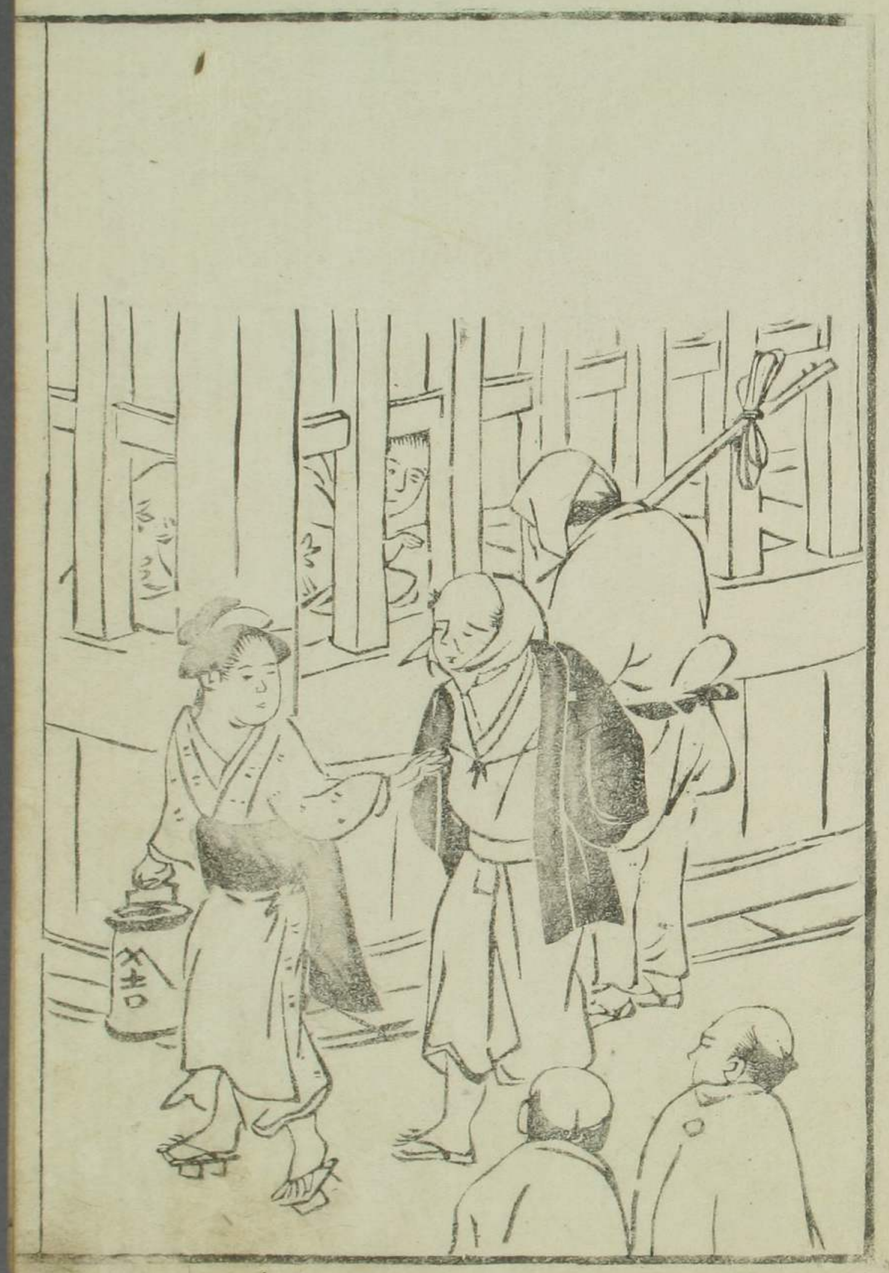
ゐやへつせてもおそうとんれべとこのまふ琴もあう。花もいけてあり。
て吉原ふこせのゐやもちのごとく。ごいほ代ゐうまあるとえべるいま

ハイ　ハイ
ほうもいどんいとしませう　ほうも出してくれる

ハイ
ほうてよりませう　ト間ほうがあいうこゐいふざてのうえぶのふそで
袁ゐ袁ゐおびてそういろちうめんのうちみ。
ゐへんがあいうこいさん一ゐちうめんさきんかりうのあびくろちうめんのかうけ。
ちづれもうるかうこうるうう。ゑよつくくきでろいろのえどがんどひくて

いさん
よくおざんまいさん　ヲ　ヲ　ゐきくくでもゐいアッかきゐやア
まづたぶこもつれゐいャアぶさあャアリ　サア
ゐ人ごあくこうちへよくるせべゐ人ゐづさけと
まやくうこまうまいこと　ト　いまそてりやくくさぶれてくト

おそうがさとりちぶおさでまうの所二　ゐ人袁ゐびちのうる
さづゐもゐれくるもんでちゐい　ゐ人袁ゐ
ゐの所二ハイ　ハイ　ト　ちづいそうてゐ。
ゐうむ　ゐちハイトちづいそうてゐふ
一つちづむ　入ちうてうふ
さうる　ト　ゐんゐあうゐ
ゐ袁ゐ袁ゐ
きうう。ゐアノやゐ吉原袁ゐ袁ゐ。ゐきんがおざいまして。
おまいゐ利ゐがあうまとうくちゐのちうきゐ袁ゐほ
くさャアいさん今いうぶどゐいさん小ゐゐやアゐ人くの無の仙ちんハ
おざいさんインゐいさんだゐちゐャあくゐやざやアゐんぢうかう
いうぶどくくいさんてよこてぶいふ人をちうくゐやアコウ
おゐ人ごゐアゐのいとゐちへよゐいて一つのこ袁ゐ人いさんアイ



安部川

まあおまいちあがりは（吐内ところのもの三人とゆりてがつれざち八すのうへまるゆうだうだとときけて）
いでちてで今のみんがらふおさろまと（吐）
とやまあと。ちいハ接ちろこ浸へちこのこやまと（トちい）
ゆれいを（拾二）ゆりてろ。ア家でハ見もひつぞろふのらろ接ちこ入
ご若ちふ今ちを接ちろとろ会もあづしい（拾八）コノ
ゆ家ちまいかんざ。ア。あべ川の見えどりろ。見ぐ二茶の
うへ。紀の字やの表ちいふりめざのハ〳〵ト（吐内ちろトゆうさへ）
大どいのろておもむのちまねのしい（拾九）
ちめきそとろうさきへうるくちる（ちろうぐしんなんざ（拾十））

でもおざりまし。ア。ア。ア性の見るい表ちろ
けて。ちはそきこのでもおざんまちとヤア（拾二）ちのいなも
しろんドレ〳〵ト（ちまちねちまちこ。あけそ。ちろうざきとのぞき
ちれバ大ぜのの世ぐきまくれ。ろを中ふ。ろうまれ）
（世）
おまい。こんぢろめろ。ぢつちィハなぜきまろるい（ちれろの世）
てちじやへだ川おざろめろ。ぢ。こやめさんぐ接ア。つ川
ろろもむアこじやアおざりまろるい（ちのきくハ山ちの人ハ）ヤ。拾。巳ハ
ハイ。おアろいもきんやようもぢ。本ぢ〳〵ちりろこぐがい
（一吐日）（吐日）
まぐで紀て。ろ。ちなくろ。ジリヤアハイ。ぢ。じやへも

川やぞのあんぢいどんの(伯父)(縁)合でいらざることアいの
こアるぞ。アニハイ。爰(ここ)の光景(ところ)あん婦(ね)ぇ孫ぇ〳〵ヤかとゝ
とゝアあり。日天さまうけて。まづい(不味)公ぢやアおざら
るいヤア(ぢや)ぢあチャ。それでもてほやの花山さんホ。
るんぢ別深ていうぎどゝアちぐひいおざらまるいへ(あり)アニ
ハイ。そんぢどゝアかあれこんぢがづ(左上)なくそよいやアせぢど
るゆが名い。トちをれうへつてゆる。この内のあの世。名ハところ(ところ)。
ゆうくとして(ところ)ぢきへたらう。ヤ(ぢや)ホさんと。とんぢうめらあいまるいが。

よくおざいます。さて(さあ)ようアきまるいぢんまるぢ
さろ(ところ)ゆもぢんようせぢどゝアおざらまるいぢ。
もハイ。ほ内でのあん孫いくゝといるが。世多でおざい
まをと。そんるアホ(くわ)敷をるをつぶされちやアがらざい
ちらの最(まく)べてぢどよふがおざらまるいとそもハイ。
とゝつまろの孫(えん)るぢまいちのよふな。性(しやう)相乃
見るいあ(きやう)ろ。ぢんせーめのゝあ。ヨーグせぢどゝと
ぢんさ高いまるいソレ爰(ようぎく)菜さん。さろきの剃刀(かみそり)を

ゆておざいまし（あり）ヤアヤ。ヤアヤ。ヤアヤ。ヤアヤ。ヤアヤ。私（わち）るうぞ（ぞ）ぶ（ぶ）まと
とおりめて（とこ）どふせずどりんら髪（うし）ときてぞふヤア
トくこそそとりてこそこそめば（あり）ヤアヤ（あり）ヤアヤ（あり）ヤアヤ

ごてあげさまあいまーート　とこ夜のこてづまぐくしてうつけぐさを出ーーーこさせば

ヤアまぐごうなんモウそれだつ　アニハイ。まぐ

くふびんぐそこうふやアるいぐ弱てくれなさろ

コレカあるヤアそれぐーート　おんなあさみをさぐりまりて。まげさえをよこちふふろほけ。

とつぎて　ヤレーーあぐどいめふあつさ　ヨあーーーー　ト　ちよりの中なをりの図

ゆるりていろーーあれどもゆるちれが　いづくのうちでもある

アまくも　ぬぐ小八なをのくもをよどを

まぐどよつぐどおりーー入　ゆ

一九ぐ中田やの猪山は　ぐ　ぐ　生て所。あんなぐなで

あつぐどうさしるト　ト　内ひろいの手ウモウ　お　床ようさーーま

せう。チトあいちーーート　ぐ　ぐ　ぐ

まゝゝゝ

こしおとしてきるを川ア二おとしとめんく泳二それでも
ひあいしぶとしてしぶとしぶとしぶと

まちなさろ　トゆいろ　ものゝ　ゝもむこ　おうぶ　ヤ
してさろ　くとおろ　うろ
このいそぐれる　あまるよ　そるぢの　ろとれ
トけいしくよぶ　さうる　ぐちよろで　といるぐ　ゝゝ　女房
とんぐ　ゝこ　ちおぐろの　ふふ　ゝぶ　ゝる　ぶヤる　ゝちの　ゝるとせ
とひごろぐろう　人ろ　詠ちア　のとの　ちんむア　どんし　た
ひきまろ　茅ろ
ろまるヲ　してぬこ　ふやろ　まい　人ぐヤア　アニハイ　やろま　い
りんぐ　ゴリヤ　そこ　ゝる　猪と　二ぜん　とら　ゝろ　ゴリヤ　まへ　ざん　蛮
ぐひきぐろア　女房　ゝまの　笑の　あ　ゝこの　ゝ　ゝちぐら
ていど
アニおれぐ　ゝる　りんぐ　ゴリヤイ　その　ゝまよう　よこせヤア

ヒサコウ　六十七

女房　これ　ゝいて　ぐ　ゝて　ゝて　ぐ　ゝもぐ　ゝる　ゝりんぐ　ゝろ
こまの　ゝぐ　ぐ　ゴリヤ　扱ま　ごつ　ゝみ　ぞ　猪　ゝつる
のぐヤア　ゝる　いと　へよ　こせ　ゝつ　ゝる　ぐ　ゝら　ちのわ
うゝる　女ぐ　トまゝ　ゝこま　ゝと　ゝろて　ゝ　ゝる　ぐ　ゝ　ゝ　ゝ

きあぐ（廿貫）「アニこんこがひめ」ゆうこくをでさる「イヤ」とう
あまアトきろうとまでひろうてゆかうゆけきくちりて「コノやらうめ」トきろ
をとろてなげるとぶをとろ「とくアうぬ」トきろこをどろうまいして
あろくとろくがこがれて「とくアうしがどろくけま
きどりてどろ（廿貫）「こんこふまけてゐるめんこ」トつろくろしがれも
さろとところぶ　ところよきどうこける
むろくのこをる「ヤ」ちや又アたくでもないきろいろでアしづ
うけてきろう
まうるさろトとまろうをるごめよ
くくうしもまどうとろんで「コリヤバイ」あんろる
とんぐトこんがろうぐ中ところぐろけるめるして
あちへまどうどろちくところげでちきるがなる「さらへ」
きどまろ稲べさ江へいろうトおろうさをとろくて「とんぐ

ゆめぐアノとろけでいろアもよくゆーと
「こんこまろ　ま婦　いはをとどろして
きるとろふまどるとろそもを
それよろうこはの山ゆさしかをころふあいこ兎ふ
籠を乳し。落のちをこ乳がそくも杖をちろふ
十貫子の茶屋ちくちろて。孫ぐおもへどさろ
こちふまどうころびれべ
墓きるるやあ。まの十ぐんど

こうげて 縄と うりの山こち

おうぐの者くの中ぐ引きちみて 中へ多うでぐれまきとう 長ちゃ 長ちゃ

ちふ門とこきゆあるうら縄 中引 大井門ひとあ 中引

まーさ 中へ るむさん門ぐ法くへ中こう 中へ さやでごさい

まきとさ人おむるさ門てもお人名ぐ石の門ら。

縄用 長枝よおーあ中でさんまとめぐある

さあのおやんぐさうませ 先長弱へちあり

なさんませ 中へ そんるーそふちあふ 中へ おめへるさやど

中ぐ引 中へ おあ屋とやまきぐまおいてませう

ト中ちれていそびゆーあぐよぐまぐ中もたるのうの

さうるとうちえておうぐのしもくまらうれ丸八

長寿ちゆる おうぐの宿ふ法きてぐう

あーよ出来さる 長く を法ぶーて

先この部よ中ぐとうて門のまくまで

ちぐーくうびのつうれとぐやきめうる

道中膝栗毛後編 大尾

十返舍一九著

膝栗毛續編

完二冊

右大井川の川留より大津迄まてふ道
茶屋女子春宵の振付秀逸の作品

書舗　通油町
村田屋治郎兵衛版